説教20220227イザヤ49：8-18マタイ6：24-34「いつまで思い煩いますか」

キリストよお越しください。弟子たちの中に立ち、復活の御姿を現されたように、私たちの内にもお臨み下さい。

うつ病などで思い煩っておられる方に対して、周りの人が声掛けする際にどのようにすればよいのかを、或る精神科医が、アドバイスしておられます。彼によりますと、「無理しなくていいからね」「今は何も気にせず、ゆっくりと休んでください」といった声掛けが一般的で的確であるとの事です。更に一歩踏み込むならば「何とか粘って一日一日過ごして下さいね。今はそれだけで十分ですから」と声掛けすれば、より的確で思い煩う人の心に伝わるのだそうです。

私たちは隣人が思い煩っている時には、愛に基づいて、このような精神科医のアドバイスにも耳を傾け、よく言葉を選んでその隣人に声掛けをすることと思いますが、多くの場合、今申し上げたような声掛けをすることになるような気がいたします。

でも、イエス様の、思い煩っている人に対する声掛けは、それらとはずいぶん趣が違うのです。イエス様は「思い悩むな」と端的に言われるのです。ちなみにこの「思い悩むな」という御言葉は、新しい聖書協会共同訳では、「思い煩ってはならない」と訳し直されています。なぜ訳し直されたかと言いますと、はっきり言いまして、イエス様は思い煩うことを良いことだとは思っておられません。それどころか悪いことだとされます。他方、「思い悩むこと」は一概に悪いことではなくて、私たちが試練に会って、正しく思い悩めば、更なる愛や善がもたらされるきっかけになるという文脈で「思い悩むこと」は語られるのです。そのような悩みの良さが現れている箇所を一か所挙げておくならば、コリントの信徒への手紙二/ 2章 4節でパウロが語った、「わたしは、悩みと愁いに満ちた心で、涙ながらに手紙を書きました。あなたがたを悲しませるためではなく、わたしがあなたがたに対してあふれるほど抱いている愛を知ってもらうためでした。」という御言葉が第一に挙げられるでしょう。

この様に聖書では、シンプルに言えば、悩み＝善、思い煩い＝悪という様に使い分けられておりますので、今日のマタイの箇所では悩みを思い煩い、と訳し変えて語っていきたいと思います。

さて、冒頭に申し上げた、人としての私たちの声掛けと、イエス様の声掛けには驚くほどの違いがありますね。私たちは決して「思い煩ってはならない」とは声掛けしないで、「無理しなくていいからね」「今は何も気にせず、ゆっくりと休んでください」などという事でしょう。少なくとも、「思い煩ってはならない」という声掛けは精神科医のお勧めではないでしょう。精神科医は長年の臨床体験に基づいて、思い煩う方々の心に届く言葉を洗練してこられた訳ですが、それゆえに、イエス様の御言葉との違いが歴然と現れていることに、私たちはとさせられます。それは「何とか粘って一日一日過ごして下さいね。今はそれだけで十分ですから」という言葉に表れています。皆さんお気づきかも知れませんが、この精神科医の言葉は、イエス様の「明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」という御言葉とは内容が正反対なのであります。ちなみに、この中の「苦労」という訳語も、婉曲な訳で、直訳すればこれは悪、となります。つまり「その日の悪は、その日だけで充分である」とイエス様は言われているのです。悪から離れよと、言われるイエス様の御言葉は、直球でに厳しいのです。

私のようなものが、私の言葉として、このようなイエス様の御言葉を語ってしまえば、それこそみんなから袋叩きに逢いそうですが、確かにこの御言葉を語ることが出来るのはイエス様しかおられないのです。それはなぜかといいますと、イエス様だけが、私たち人間のただ一人の救い主であるからです。このただ一人の救い主イエス様こそが、私たちの思い煩いを声掛けによって消し去ることが出来、そればかりか思い煩いを喜びへと変えてくださることが出来る唯一のお方だからです。このことをまだ信じられないでおられる方は、是非、今この時に、イエス様を信じることが出来ますようにお祈りいたします。

聖書というのは信じた者の証言集であります。詩編には次のような証言が記されています。「虐げに苦しむ者と／いている貧しい者のために／今、わたしは立ち上がり／彼らがあえぎ望む救いを与えよう。」このように主なる神が言われたので、それからその通りイエス様がこの地上に救い主として登場されたのでした。

以上のようにイエス様の御言葉は直球で言われることも多いですが、それだけではなく、たとえ話や、或いはほのめかしによってもイエス様は語られました。。では今日のマタイ福音書の箇所を見て参りましょう。まず24節、「あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」とありますが、イエス様の言いたかったことは、もちろん神に仕えなさいという事です。でもこの２４節ではそのことを、イエス様はほのめかしによって語られます。そのことを言外に表すことによって、私たち人間の自由な意思によって、善いほうを私たちに選ばせようとされておられるのです。なぜ、イエス様はこの時、ほのめかすにとどめたのか、それは、イザヤ書に記されています「主はわたしを見捨てられた／わたしの主はわたしを忘れられた」と嘆く人や、或いは現代社会で「神などいないだろう」と高をくくっている人たちに向けて言われているからではないでしょうか。「神などいないだろう」と言っている人に向かって、最初から「神の国と神の義を求めなさい」と要求しても彼がそれを素直に受け入れるとは限りませんから。

イエス様は、ほのめかしから初めて、時と人の場合に応じて、御言葉を加えて与えられます。なぜイエス様はそんなことが出来るのか。それはイエス様は、全てを支配するお方で、時の流れをも支配しているからです。イザヤ書に「あなたを破壊した者は速やかに来たが／あなたを建てる者は更に速やかに来る。」と記されていますが、これは神の国が、そして永遠の命がる様子です。私たち人間は、神の国よ、いつまでに来るのですかと言って、待ちわびてもいますが、時をつかさどるイエス様にとっては、神の国は、破壊よりも早く、速やかに来ていて、もうすぐそこに来ているのです。既に来た！といってもよいでしょう。私たちはこの世の時間の流れに縛られていますが、イエス様はその時間の流れを作り出すお方です。そんな素晴らしいイエス様に是非私たちはお仕えして参りましょう。

　一方で、富はどうでしょうか。富というのは人間が造りだしたものです。ダイヤモンドの原石は、人間が磨いて大切に扱わなけば、富にはなりません。野原に転がっているダイヤモンドは、そのままでは富ではなくて、人間はそれに価値を見出すことは出来ないのです。このように富というのは、それなりの価値はありますが、人間がそれにお仕えするほどの価値はないのです。

イエス様はさらに恵みの御言葉を増し加えていかれます。「思い煩ってはならない」ことを多くの事例を挙げて説明されて生きます。その根本は、「思い煩い」は人を神から遠ざける、という事であります。つまり「思い煩い」は人の信仰を失わせ、人を信仰から遠ざける悪いことなので、イエス様は厳しい御言葉で語っておられるのです。そして「思い煩い」と対極にあるのが「神の国と神の義を求める」という事です。。思い煩うのをやめるのが先か、神の国と神の義を求めるのが先か、というのは卵が先か鶏が先かの議論に似たところがありますが、どっちが先に来るのかは、それぞれの人の今置かれている状況によることでしょう。ともかく今、思い煩っている方は、イエス様を信じて、その思い煩いを止めてみましょう。又、今、神の国と神の義を求めようと思っておられる方は、イエス様の助けによってそれを進めて頂きたいと思います。

イエス様はこの世の食べ物や飲み物や着る物を決しておろそかにされている訳ではありません。「これらのものはみな加えて与えられる」とイエス様ははっきり言われています。イエス様はこれらのこの世の富を、決しておろそかにせず、必ず与えられる、と私たちに保証して下さっています。イエス様はこの世の富をそういう意味で大切に扱っておられるのです。

一例を挙げれば、「何を食べようか」と言って思い煩うことは、本当に意味がないことですね。今晩、刺身を食べようか、焼き肉を食べようかと思い煩っている時間は意味がないですね。できればそんな時間は省いて、今晩は刺身、明晩は焼肉という発想に切り替えていきたいものです。

又、これを着た方がよいかあれを着た方が良いか、思い煩う時間があったら、とにかく手が触れた方の服を着て今日は出かけて、明日は別の服を着て出かけることにすればいかがでしょうか。

ちょっと、イエス様の御言葉を、現代人の心に届く事柄で言及してみましたが、これらの事例は、思い煩い＝悪という根本からは外れていないと思います。

よく、聖書の御言葉は、必ず居住まいを正してかしこまって聞くものだ、という思い込みがありますが、実はそうではなくて、聖書の御言葉は、もちろん居住まいを正してかしこまって聞くときもありますが、それ以外にも、四六時中、それこそ昼寝している時も、だらだらしている時でさえも、聞くべき言葉です。将に、四六時中、御言葉を聞きそれに従っているという事が、神に仕えているという事です。ですから、私たちは、努めて、御言葉が日常の生活においても語り聞かれるようにされるように、自分たちの言葉を洗練していく必要があるのです。

いや、そんな風に私たちに御言葉が語れるのだろうかと、思い煩う必要はありません。御言葉は恵みとして、必要な時に必要な場面で必ず与えられます。イエス様を信じていれば、御言葉が様々なヴァリエーションを伴って私たちに口をついて出てくるようになるでしょう。それこそが今日、イエス様が私たちに言われたことです。時を刻み、思い煩いという悪に私たちが陥っている事から救ってくださるのは、イエス様の御言葉でありますが、私たちはその御言葉を、いま、目の前にいる思い煩う人に向けて、愛をもって様々に工夫して声掛けすることによって、その思い煩いという悪を打ち砕いていく業に関わっていくことが出来ます。そして益々、イエス様が涙を流しながら私たちにお語りになっている、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。」という御言葉に、共に、近づいていくことが出来るようにされていくことでしょう。

お祈りします

父なる

あなたは御子を遣わして、私たちに思い煩うのはやめなさい、神の国と神の義を求めなさいと言われました。そう言われるあなたこそ、思い煩いから救ってくださるただ一人の方です。どうかそのあなたの御言葉に私たちが素直に従って、思い煩うことのない国に住まうことが出来るようにしてください。

又、そのように救われている私たちが、思い煩う隣人の為に、悩みと憂いの心をもって寄り添い、執り成し祈ることが出来ますように。速やかに来て下さるあなたを待ち望んでいます。

今、ウクライナの地で戦闘によって傷つき倒れている人々を覚えます。どうか、あなたが全ての人々の不安や思い煩いを、癒し慰めて下さい。どうか、希望と平和の御言葉が聞かれますように。又、戦争を遂行している為政者たちが、この世の国々の憎しみの為に動かされることなく、神の国と神の義を求めることが出来るよう、全世界に御言葉を発信してください。

この別府の地で、あなたに礼拝を捧げる私たちが、あなたにつながる体の枝の一つとして、あなたの為に、日々働いていくことが出来ますように

父と聖霊と共に一体で